



ジャパン・グロース・ファンド 《愛称:得意技》

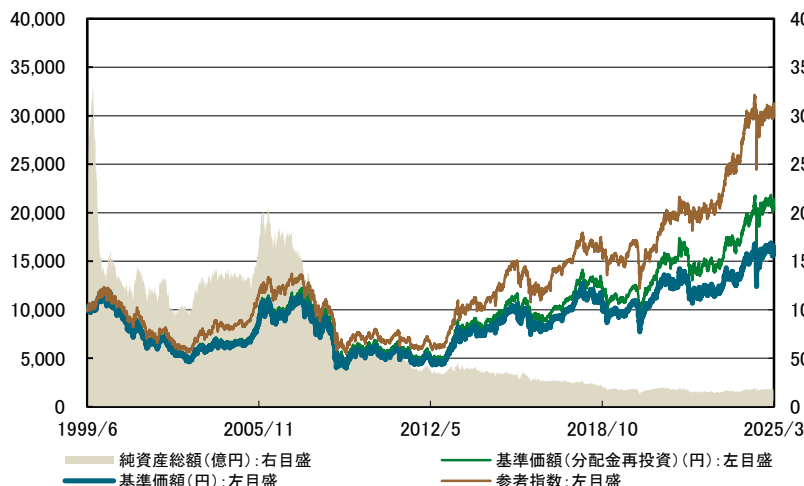
追加型投信／国内／株式

当初設定日 : 1999年6月22日

作成基準日 : 2025年3月31日



基準価額の推移



- ※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。
- ※ 参考指数は、TOPIX(東証株価指数)(配当込み)です。当初設定日を10,000として指数化しています。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	15,682 円	- 154 円
純資産総額	16.86 億円	- 0.23 億円

期間別騰落率

	ファンド	参考指数	差
1ヵ月	-0.97%	0.22%	-1.19%
3ヵ月	-4.44%	-3.44%	-1.00%
6ヵ月	0.36%	1.81%	-1.44%
1年	1.99%	-1.55%	3.54%
3年	39.18%	47.24%	-8.06%
設定来	103.07%	198.61%	-95.54%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

TOPIX(東証株価指数)とは、株式会社JPX総研が算出、公表する指数で、日本の株式市場を広く網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。TOPIX(東証株価指数)(配当込み)(以下、「配当込みTOPIX」という。)の指数値及び配当込みTOPIXに係る商標又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など配当込みTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及び配当込みTOPIXに係る商標又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、配当込みTOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 3,100 円

決算期	2022年6月	2023年6月	2024年6月
分配金	0 円	550 円	350 円

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

個別銘柄が基準価額の変動に与えた影響度(月間、概算)

プラス要因銘柄	寄与額	マイナス要因銘柄	寄与額
川崎重工業	+ 105 円	トリケミカル研究所	- 106 円
三菱重工業	+ 102 円	ディスコ	- 61 円
三菱UFJフィナンシャル・グループ	+ 56 円	レゾナック・ホールディングス	- 53 円
東宝	+ 23 円	日立製作所	- 48 円
円谷フィールズホールディングス	+ 23 円	東京エレクトロン	- 44 円

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。



ジャパン・グロース・ファンド 《愛称:得意技》

追加型投信／国内／株式

当初設定日 : 1999年6月22日

作成基準日 : 2025年3月31日



資産の状況

※ 当ページの数値はマザーファンドベースです。

資産内容

株式	97.81%
株式先物取引	0.00%
短期金融資産等	2.19%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10業種

	業種	ファンド	参考指数
1	電気機器	24.49%	17.41%
2	情報・通信業	15.87%	7.58%
3	銀行業	9.05%	9.52%
4	機械	8.72%	5.56%
5	化学	6.91%	4.90%
6	輸送用機器	6.39%	7.23%
7	サービス業	5.51%	4.56%
8	小売業	4.34%	4.53%
9	ガラス・土石製品	3.85%	0.64%
10	卸売業	3.60%	6.73%

※ 対現物株式構成比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	業種	比率
1	ソニーグループ	電気機器	6.08%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	5.02%
3	日立製作所	電気機器	3.86%
4	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.83%
5	川崎重工業	輸送用機器	3.55%
6	東京エレクトロン	電気機器	3.25%
7	パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	小売業	3.05%
8	三菱重工業	機械	2.99%
9	ダイフク	機械	2.99%
10	サイバーエージェント	サービス業	2.97%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 54

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



ジャパン・グロース・ファンド 《愛称:得意技》

追加型投信／国内／株式

当初設定日 : 1999年6月22日

作成基準日 : 2025年3月31日



ファンドマネージャーのコメント

【市場動向】

国内株式市場は下落しました。月前半は、2月末の株価下落を受けて自律反発を狙った買いが優勢となったことや、トランプ米政権がカナダとメキシコへの自動車の関税について1か月間の猶予を設けたことで関税政策への過度な警戒感が後退し上昇しました。一方、トランプ米大統領がメディアへのインタビューで関税による米景気後退入りの可能性を明確に否定しなかったことなどが重石となりました。月末にかけて、トランプ米大統領が米国に輸入される自動車へ25%の追加関税を課すことを発表したことで自動車関連株などが売られたほか、米経済指標を受けてスタグフレーション懸念が高まったことなどが株式市場の下押し圧力となり、月間では下落しました。

【運用実績】

高熱伝導基板において高い競争力を有しており、車載パワー半導体や生成AI(人工知能)関連用途にて需要拡大が見込まれるMARUWA、半導体製造装置において複数の分野で高い世界シェアを誇り、半導体産業の拡大に伴い持続的な成長が期待できる東京エレクトロンなどを購入しました。一方、中国市場における在庫積み増しの反動減や費用の増加などを背景として、業績改善に遅れが生じると判断した朝日インテック、映画やアニメ関連事業の好調が持続するものの、株価上昇に伴い割安感が低下した東宝などを売却しました。

【月間パフォーマンス】

基準価額は前月末比で下落し、騰落率は参考指数を下回りました。

業種構成ではその他製品や証券、商品先物取引業のアンダーウェイト、機械のオーバーウェイトなどがプラスに寄与しました。一方で、電気機器や情報・通信業のオーバーウェイト、保険業のアンダーウェイトなどがマイナスに影響しました。

個別銘柄では、川崎重工業、三菱重工業などがプラスに寄与した一方、トリケミカル研究所、ディスコなどがマイナスに影響しました。

【市場の見通し】

欧米の景気減速や中国経済の停滞長期化が懸念されるなか、米国による関税引き上げによる景気への影響が見通しにくいことから、株式市場は当面、変動率の高い状況が予想されます。一方、欧米では景気動向に応じた柔軟な金融政策によって景気後退は回避できると思われること、日本企業の業績動向は底堅く推移し、増配や自社株買いによる積極的な株主還元も継続すること、新NISAを活用した個人投資家資金の流入が期待できることなどから下値不安は限定的であり、投資家心理が改善するにつれ、上昇基調に回帰すると考えています。このような環境下、当ファンドでは、外部要因に左右されることなく独自の成長シナリオを描ける銘柄を中心に選別投資を行います。

【今後の運用方針】

業績とバリュエーションを重視した割安成長銘柄への投資を行い、中長期的に市場平均を上回るパフォーマンスを目指します。中長期の利益成長とROE(自己資本利益率)に着目した業績好調な銘柄を中心とし、バリュエーションにも留意した銘柄選択によってポートフォリオを構築します。



ジャパン・グロース・ファンド 《愛称:得意技》

追加型投信／国内／株式

当初設定日 : 1999年6月22日

作成基準日 : 2025年3月31日



ファンドの特色

1. わが国の株式に投資し、ファミリーファンド方式で運用を行います。
2. 個別企業の分析を重視したボトムアップリサーチによる銘柄選定を行います。

投資リスク

《基準価額の変動要因》

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。
従って、**投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- **信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様へ帰属します。**
- **投資信託は預貯金と異なります。**

【株価変動リスク】

株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【信用リスク】

有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

《その他の留意点》

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ファンドは、大量の換金申込が発生し短期間で換金代金を手当てする必要性が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。
これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止、取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。



ジャパン・グロース・ファンド 《愛称:得意技》

追加型投信／国内／株式

当初設定日 : 1999年6月22日

作成基準日 : 2025年3月31日

お申込みメモ

- 購入単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入価額 … 購入申込受付日の基準価額とします。
(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
- 換金単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 換金価額 … 換金申込受付日の基準価額とします。(信託財産留保額の控除はありません。)
- 換金代金 … 原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
- 申込締切時間 … 原則として、販売会社の営業日の午後3時半までにお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 換金制限 … ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入・換金申込受付
の中止及び取消し … 取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。
- 信託期間 … 無期限(1999年6月22日設定)
- 繰上償還 … 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。
・受益権の口数が5億口を下回ることとなった場合
・ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合
・やむを得ない事情が発生した場合
- 決算日 … 毎年6月21日(休業日の場合は翌営業日)です。
- 収益分配 … 年1回、毎決算時に原則として収益分配を行う方針です。
- 課税関係 … 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。
ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
なお、配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

《投資者が直接的に負担する費用》

■ 購入時手数料

購入申込受付日の基準価額に**3.3%(税抜3.0%)を上限**として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

■ 信託財産留保額

ありません。

《投資者が信託財産で間接的に負担する費用》

■ 運用管理費用(信託報酬)

運用管理費用(信託報酬)の総額は、以下の通りです。
純資産総額に対して**年率1.65%(税抜1.5%)**を乗じて得た額

■ その他の費用・手数料

有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用等をその都度、監査費用等を日々、ファンドが負担します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「お申込みメモ」「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

作成基準日 : 2025年3月31日